名張中学校コミュニティ・スクール

学校運営協議会委員による授業参観

１．学校運営協議会委員による授業参観

【　日　時　】　令和２年２月１５日（土）

１年生（教科授業）

２年生（教科授業）

３年生（人権学習）

２．今年度の評価と来年度に向けて

【　評価全般　】

・先生方と生徒の関係が良好で、全体として落ち着いた学校生活を構築していただいている。

・学力への保護者からの期待が大きくプレッシャーであったと思うが、真摯に向き合い、数学においては習熟度別指導を実施できたことで、年度始めの４月より、年度終わりの１月の「みえスタディ･チェック」や「なばりスタディ･チャレンジ」に成果が出ていることに心強く感じている。しかし、あまり数値にこだわることなく、自分の行動に責任が持てる、心豊かでたくましい子どもを育ててほしい。

・ＣＳ（コミュニティ・スクール）がスタートし、現在の学校の強み、弱みを出してもらい、外から見た学校の状況とは違う良さや課題を知ることが少しずつできてきた。HP も充実しており、学校の様子がよくわかる。また３つの地域の「まちづくり協議会」の行事に参加、協力してくれたことは意義深い。

【来年度にむけて】

・若い先生が多く、良い表情で頑張ってくれている。今後、さらに教職員が生徒と一緒に成長できるよう、管理職がリーダーシップを発揮して進めてほしい。

・集団に対する不適応を起こしている生徒への個別指導の対応に係る教職員の負担を少しでも減らし、効果的な支援が出来るよう、タブレット等によるテレビ会議などを検討するなど、知恵を絞ってがんばってほしい。

・家庭学習の定着に苦慮をしていると聞くが、名中校区でスタートさせている「チャレンジ・デー」の定着、拡大に期待したい。地域も応援したい。小中一貫教育も本格実施となるが、まずは距離の近い名張小と名張中の中で、できることから模索しながら進めてほしい。

・HP や学校だよりで、学校の様子を発信してくれている。負担無く持続可能な形で地域と学校が連携し、子どもを育てていくために、それぞれの組織でも学校の強み、弱みを交流し、地域の子どもを地域で育てるために何ができるか､意見を求めたり､支援を要請していきたい。

・小さな規模であっても「英語クラブ」が海外と交流したり、英語で名張を発信する取組を始めようとしていると聞いている。小さな一歩からでも、地域と密着した取組を臆することなく進めてほしい。